



# 若い群像

「やはり、これからの農業は設備の近代化と経営の合理化を早める必要がありますね。」

最近、ほ場整備などで水田の大型化が目立っていますが、水稲一本ではなく、これからはそ菜栽培、養豚などの事業を進めたいと思いますね。」と語るのは、緑豊かな市内大和田町で、農業にうちこむ菅原太一さん。

父親の永太郎さんの後継者として農業に継事して、もう六年が過ぎたが、今では完全に一本で立ちまわっているほど農業に関する勉強を積んできた。

また、太一さんは留萌管内四クラブの会長さんでもある。

管内の三百人をこす会員をまとめ、指導するを受けながら、同じ近代農業化を目指す若者とともに真剣に取り組んでいる。

「近い将来は、農業の好きなお嫁さんをもらって、もっと品質のよい米を、そして、もっと高級なそ菜づくりを目指したいですね。」

でも、最近の女性はなかなか農家に残りませんからね」といって笑う。

例年になく降雨量の少ない夏の災天下で、収穫の秋をめざして草をかる手にも力が入る。

広報

るとい

'73 8月号

第185号